

# LEON- TODO

*N-ro 12*



1955

JUNIO

# 瑞典の国際児童画展と

## 小樽からの援助

早川 昇

小樽エスペラント協会が 昨年秋、瑞京で開かれた国際児童画展へ 50  
枚に近い小樽や他地の小児児童画をお送りして、私の育った小樽花園小学校  
から、一冊三名、二冊二名の受賞者を出した事は、手遅れ遅れて居ても、小  
樽の我れ我れ、殊に私にとり、母校の栄誉として、取りたく喜ばしく思う。

此の選画に當つて、学童の爲に全額を費用を割負担に成つた協会長山本  
博士のお叱は、私達の額を清め、額を括げるものであつたと、私などは他じ  
て居る。

此の選画への出展の依頼が、瑞京カールスコーガの「ラ・アングロ」エス  
ペラント小会委員、グンヒルド・デュスタンド夫人から私へなされたのは、  
昨年六月で有つた。と記憶する。同小会友、同画のジャーナリスト、改ア  
イター、アダムソン氏から私の事を承知されて、二ヶ月にもわたつて、私の  
為、正取エスペラント協会費をお支払い下さつた事は、予てから私の、終生  
忘れ得ないと思つて居たところだったので、私は及ばずながらお私のおしる  
しにもと、平述、聖教委、市教委、日本エスペラント学会其の他への輪旋成  
績に及びかけた。市教委では、語譯主宰の三好孝氏が、小学校長会議開催  
の時に、委員会一同に其の目を遣つるとお約束したつたので、来るにうれし  
く有つた。日本エスペラント学会では、どう謝儀助下さつたか具体的な  
ことは判りないが、奈良縣に住まれる藤井徹男氏と言う方も、彼方へ学童  
の冒頭十枚程を送られたと彼を知つて、写会のお世話によつてではないかと、  
感謝して居る。市内の小学校へは、市教委の幹事室も有る事なので、承自身  
の直接の依頼は、日葡の通路に近い三校にとどめた。其の内、汐見合小学校  
(留面担当、坪松先住)、花園小学校(阿、中島先住)の愉快諾を得た事は、  
どんなに私を喜ばせたか、こうして七月には、右二校から、合計四十枚の復  
休児童画が、私の手に渡つた。是れに、札幌市観北小学校の女生の繪や、当  
協会員有藤幸氏のお索めだつた泉坂泉舎吉町明倫小学校生の繪を加えて、タ  
イトルのエス訳と附属への記入に取りかけた。タイトルのエス訳には、当  
協会の託筆、江口吉吉氏の御援助を一日頂戴出来て、仕合わせだつたと思つ  
て居る。

絵の荷造り、発送には、市内近郊の日蔭商店の高橋巖氏（常務取締役）が、親切にお世話下さった。其の折、私から、瑞典に於けるエスペラント運動に宛いて贈かれた阿氏は、氏自身も嘗てはエスペラントを学ばれた事話されて、西条児童画展同催の勲野努力のテイスタッド夫人とやらへ、私からも、当店で売りに置いて居る王族印刷画用品見本一箱を、お送りしようとして申出られた。そして尚もなく、見本の一箱も、私の名宛書きに收めて、幾ならぬ道徳、比喩へ危いだけのだつた。是れに対する阿夫人の謝辞と、あちらでの日本児童画の評判を、高橋巖氏宛のお手紙から拾つて見よう。

「早川さんからのお手紙と殆んど同時に、貴方のお送り下さつたクレヨンの小瓶も、届きました。私達は、本当に、うれしやうな嬉しいやうです。そしてもう、当世の美術審査員の二君が、用ひ初めました。私の二人の坊やも、阿叔、其れを使つて、画き初めました。会長は今、他地の講習会へ行つておいでになります。阿氏は貴方のお送りになされたクレヨンを宣伝しようといふ御意向で居られまして、さつと近い内には、注文をも受取りになつて、お供になる筈でしょう。私の坊や達も学校で皆に、頂戴した色々な冊を見せ居まして、既に何名もが、興味を持ち初めました。世界児童画展覧会は、当地で観ての人々に感られたと言つて宣敷いのですが、中でも日本から参りました絵は、大層噴賞されました。」

同夫人から私へのお手紙によると、日本からの児童画の出来栄は、審査員を全く驚かせたと言ふ。

此の展覧会は、カールスコーガでは、昨年九月四日から十二日にわたつて開催された。其の会場風景は、「ラ、プラクティーゴ」誌昨年十二月号に掲載して居るが、其趣は美術館で、数多くの児童の比喩の歌謡が、各国からの児童画の向を、あためて居る。比喩に集まつた世界の児童画は、十八ヶ国からと言ひ（新場誌）、又、二十ヶ国（万国エスペラント協会誌、昨年十一月号）からとも言ふ。観衆は、右期間に於いて、六千六百九十三人を算えた由である。

カールスコーガに於ける展覧が終ると、同展は次に、瑞典国内の多数都市を巡回して、前かたようである。前掲協会誌によると、昨年十月に於いては既に、十三市から開催を求められて居り、今般少くとも、四万人乃至五万人の観衆を迎える事に成ろうと言ふ。会長ボナンダー氏等の御満足は固より、小さいなエスペラント主義者の歓喜は、どんなだつたらうか。

日蔭商店へは、昨年十一月、テイスタッド夫人から七十五瑞典クローネの送金があり、王族印刷クレヨン二十五巻のもの五箱と、王族水彩絵具十二

色のも  
越され  
るから  
れた  
前の川  
瑞典の  
テイ  
一日の  
。  
。  
。  
そし  
stra  
「ラ、  
二巻に  
児童に  
そこ  
当市小  
こう  
に、私  
教育長  
取柄は  
つた西  
言葉に  
世界を  
りさん  
派通  
料を此  
きたか  
Espe

色のもの二箱と、王様王冠クレヨン別荘二十五色のものを送つてくれと申し越された。夫人の御希望では、クリスマス前に受取りたい、プレゼントにするからとの事だったので、高橋氏は誕生日に、選れも祐密便を以て、送送された。私は選れに對し、一寸お冤の垂な気持もしたのだったが、其處に、目前の小利をお考文にならぬ阿氏のお快さそなのお顔を見て、もう何も忘れて、端裏の暖い子達の喜びを、我共阿に享すのだつた。

テイ夫人から、小希花園小学校庄五名の入賞を報じて来たのは、十二月十一日の事だつた。受賞者の姓名、三令、面額は

○ 一 等

衣辺つぐじ君(アオ) — 「聖火大会」。

坂口玄子さん(シウ) — 「お祭神楽」。

北瀬靖子さん(クオ) — 「私のお友達」。

○ 二 等

糸崎ひで子さん(フウ) — 「睡儼り」。

山崎美菜子さん(シウ) — 「節分」。

そして賞品は、一等にはホウルゼン画伯 (S-ro Elizabeth Bergstrand Poulsen) の色別児童画集 — "Nordiska Barn" — と、「ラ・ア・グロ」小会版の "Karlsboga Urbo Fariganta" の二冊で、二等には俊若一冊と報じて来、尚もなく其れ等の品は、小希を含め各地出品児童に対する通函参加証書と共に、私の懇切に届いた。

そこで私は、此の旨を山崎博士に報じると、再び三好善導主事を訪ねて、当市小学庄分賞品、証書の授受式の挙行を依頼した。

こうして、本年一月十九日の午後の事だつたが、山崎博士のお立会いの下に、私等も出席して、小金次教育長から、殊えある賞品、証書は授与された。教育長を充たした五人の受賞者と、証書受取人代表の生徒の賑ひに溢れた感情は、永く私の胸裡に生命あるで有ろう。生徒さん達に付いておいでになつた西先生も、宛石に、心からおうれしそんで有つた。其れ等庄分方は、お言葉によれば、多分、当協会本郷の講習会に、欣然参加に成る事でも有ろう。世界を回らす教育者エスペランティストの同志愛が、遠からず此の本道にもたらさんとするもの前へ、私は、低く頭を垂れる。

私達の選選に際しての宛君からせば、端裏での感賞が終つたならば、全資料を此方へ送り寄越してもらつて、北海道でも盛大に「世界児童画展」を開きたかつたので有るが、阿小会では、カールスコガに「エスペラント館」"Esperanto-Domo" を建設する為、全応募品は、希望者へ、売り渡

たようである。テイ夫人の表せに依ると、彼女も、二枚。

「お友達」——常盤野中とお君（汐見台校生、七才）画。

「銀治産」——相沢忠昭君（明倫校生、十一才）画。

というのを買われたそうで、クリスマスには、背負への御挨拶絵巻書を、私までお送り寄贈しになった。

遅れ等々、他地方外の賢匠、証書の回付は、私の教日を脱しごから抜つた。思えば、日本の何処かに、又、世界のどこかに、悪い風は悪い風を呼び、よろこびは缺びを伝えるであろうと、今私は、静かに、前方を凝視する。

（終り）

○此の短文に添えて。

私は昨年未、ウ。エ。アから、民権会の専門委員に就つてくれという御挨拶を受けてしまいました。私のようなエスベラント語学の初耳民が遅れをお引受けしますのは、どう考之ましても所謂「出過ぎ」であるように存じたので悔座しましたが、久しく民権学に興味を持ち、他國の同好委員とも大奮して居りました関係から、山崎博士や木道達監の善なる御力にすがりましたら、或いは私のようなものでも、幾分の功きは出来ませうかと存じまして、……お笑ひ下さいますな……とうとうお引受け致してしまいました。何とぞ斯未は、一層御指導、御鞭撻下さいませよう。心からお願ひ申上げます。

## 埋 火 (三)

相 次 治 雄

埋火とはいみじくも名付けるものかな、とわれながら感心している。現われては消え、消えなんとしては又燃火として燃え上る。あまり勢はよくないが、軒々消え果ててはしまわぬ。LEONTODOが何百年続いてもこの調子なら原稿の区切れになる事はあるまい。原稿を書くのをさぼるつもりでこんな題名を付けたわけではない。

エス運動は埋火の如く、永遠に消える事なく、ある時は燃え上りある時はか細い煙を上げている。時期が来れば、久々んとほの煙を上げて燃え上るのである埋火の様に根強い運動をつづける事を形容したつもりである。

## オ2回全道エスペラント大会（札幌）

オ1白山大会に付て前二回にわたつてほゞその大體をお話した。この山部の大会からオ2回大会までの間に色々な事があつた。ヨセフ、マヨルに付て、又中村久雄君や彼が主宰していたエス普及会の動きや、本道エス家の差分けである三田智大先生等に就ても記して置きたい事は多々あるが、その前にオ2回の札幌大会を記置し、あまり大本的であつたオ1回大会から本家のエス運動の軌道に乗りかかつた札幌大会、それからこの大会に於けるその後の全道エス運動の萌芽を説明し終へんと思ふ。

1933年昭和8年9月23日（エ）24日（日）の2日にわたつてオ2回北海道エスペラント大会は札幌で開催された。この年、6月20日札幌市日本植民学会で講習会開催、参加者30名講師は甲村久雄君であつた。6月30日から夜寝香犬呂方で論議会をしたのだから期間一週間一週間十日後であつた事に記置する。その前の其十月頃から大本の使者を対照として相沢が講習会を構つた。昭和7年頃札幌のエス会は、北大、函館、札幌エス会と札幌エス聯盟を構つていた。だから札幌だけでも月会の数は200名位はいたと思ふが聯盟の創会に出席する人は10名以内位であつた。

大会の *Informaizo* は8月1日、7月5日、7月15日と3回発行した。会場は鉄道エス会の好意館に三崎堂市氏の借りりて當時の鐵道倶楽部に決定した。大会参加者30名。

目立つた参加者（その當時の有才なエスペランティスト及び現在でも活躍しているエスペランティスト）を若干御紹介しよう。

中村久雄（山部）、尾戸武吉（剣路エス会）、国鉄の有才メンバーの一人、彼に札幌エス会戦線後組合の委員長等とされたが、現在札幌におられると聞いたが御目に掛つた事はない。柳井末夫（三近山村）、原田三馬（原田エス会）先生物故された。三田先生と新エス会を築り *HEL* の編成のために非難の努力をされた。小樽からは藤川敏蔵（小樽エス会）、福田一（小樽エス倶楽部）、福田君に就ては今後大いに記置しなればならぬと敬多くのお話大である。長谷川亨（小樽エス普及会）、この人の事はあまり記憶していない。たゞ小樽エス普及会の会長として出席しておられるので名前だけ記した。小樽エス会として近藤憲雄、坂下清一、舟美留爾日、並日記とも書いていた。スミルニツキ一白系ロシア人高商教授、エス語はあまり深くはやらなかつたが、札幌から三崎堂市（札幌クラブエス研究会）、札幌エス会から相沢外六人、この中に藤坂圭治君も入つている。志女から岡本威雄、苫小牧からは夏御隆志死生工の学生であつた菅原鉄雄君外10人の学生が、

トラックで大会当日乗り付けた。その外東京日々新聞社石井幹次氏といふのが大会の記録にのつて居るがこれは警察のスパイである。敗戦後彼に会つた時、皆はまことにすまない事をした。しかし君達と接触して、エス運動の美しさに心をひかれだ。今度は本当にエスペラントを學んでみたいと云つていた。意外本心かも知れない。この石井(本名は別名だが必要もないと思われるので今後もこの石井といふ名前にしておく)の外にもう一人の特高刑事でAといふものにもやはり敗戦後出會つたが、これも石井と同じ様な事を云つていた。又別の特高刑事はエスペラントを社会主義者(というのは現在の共產黨)と同じ様に見なし、密えずわれわれの動向を監視し、外国との連絡内容を把握し度と、ある時はわれわれをおどしつけ、又ある時は親しげに話しかけ、一面面は一度位は必ずやつて来たものである。とかくこの石井といふ刑事は、私の真合一黨同志やすかつた。色々な便宜も許してくれた。又新しいエスペラントの家庭訪問はしないといふ私の約束もよく聞いてくれた。そのかわりうづかりしてエスペラントとの面に親密なもれたあとでひどい目に會つた事がある。(この事に付いては24回日本エス大会の記者を多く味に暴露するつもりである)

オノ日は四時りであつた。発表式、祝電祝詞、各世報告、その後講演演習會、中村久雄氏の *Dangero Vojo de neologismo* 荻美裕雄氏、家庭部長、樹木の高瀬、相沢、エスペラントに現われたアラビヤ語に就て、

大崎からオノ回協議員

- 一、北海道エス連盟報告 中村久雄
- 二、連盟回 藤藤ノ井 札幌エス会代表

各地のエス会又は個人から一定の問答にエス文又はエス語に関する記事を書き本部に送る。本部でまとめて一冊にしたら各会又は個人に返覧させる。(これはしげらくうがいた)

- 三、北海道エス運動史編輯ノ井、渡部隆志  
運動史編輯委員として次の通り決定

- |       |       |
|-------|-------|
| 表 紙 坂 | 渡部隆志  |
| 後 附   | 中村久雄  |
| 委 員   | 相沢治雄  |
|       | 小田島 敏 |
|       | 藤田仁一  |

この発表はその後一冊にまとめられ昭和10年11月20日発行した。32頁あり 札幌、函館、エス普及会本部、苫小牧、小樽、帯広、旭川の運動小

史と並ぶ政治界の権威した北海道エスヤラント運動史専攻からなつてゐる。

四、各地ノ名士ニ本館ヨリ往復ハガマスハ永田氏ノ實況報告ノ世ヲ送り、其ノ意見ヲ尋ネ、其ノ結果ヲ彙悉スル計畫ヲ小冊ニスルニ（坂下清一氏）ヨリ提案アリタリ。中村氏ハ附屬本館ノ現任ノ資力状態ニテハ本可能ナリト喜ヘ聯盟ニ賛成ノ出来ル望望スル事トナセリ。尚、中村氏ハ金費ノ完全ナル払込ヲ希望ストノ言アリタリ。（以上原文のまま）

八時から大会晩餐会、この晩餐会の席上でリンゴが皆に配られたがこのリンゴの紙面には Verda Sento がくつきりと印されていた。これには参加者一同もみなからず驚いた。之は蓮美氏が一ヶ月も前から用意されたものであつた。

オノ日午後、オノ日はひどい雨降りであつたが、この日は小降となり、予定通り円山にピクニックに行く事になつた。札幌神社に参拜し中村久雄氏がエスヤラントで天神神祠を築上げた。ノ、時再び会場にもどり

オノ四時議会（ノ時キマリ）

一、イスライル・ライツ・ロヴイツ子絶賛ノ件

リテラトゥラ・モンドの特派員イ、ラ氏を招拜してほしいといふ事は、学会からも通知があつたのだが文は實現しなかつた。

二、ネオロギスモニ賛スル件

最初中村氏、藤田氏、渡辺氏ノネオロギスモ排斥ノ演説アリ。藤田氏ネオロギスモ排斥ノエス文ヲ新編ス、乃場一致ニテエヲオコノ日本エス大会ニ賛スル事ニ決定シタリ

オコノ日本エス大会ニハ中村藤田両氏が参加ノ予定ナレバ而テネオロギスモ排斥ノ決議ニ關シテ代表委員ケルコトヲ依頼ス。尚、藤田氏ハ別項ノネオロギスモ使用反対決議ヲオコノ日本エス大会ニ提出スルモノトス。

以上満場一致ニテ決定セラレタリ。

### 決 議 文

#### Rezolcio pri la Neologizmaĵ

La Esperantistoj de Hokkaido-insulego, kunvenintoj en la 2a E. Kongreso en Sapporo unanime kondamnas la reformemon kaj troan neologizmon de tielnomataj "modernaj". Esperantistoj



kiuj Cintage pli malfaciligas nian internacian lingvon. Tro ofte oni ne atentis nin Orientanojn de la enkonduko de la tienomataj "internaciaj = vortoj", kiuj ne estas komprenataj en la Oriento same kiel en multaj eŭropaj malgrandaj nacioj. La kongreso aprobas la energian proteston de nia talenta poeto Julio Baghy kaj kondannas la pli ol 600 senutilajn novajn vortojn aperintajn en la parnasa gvidlibro (eldono de Literatura Mondo, Buda pest). Vivu la simple Esperanto! Vivu la tutmonda kaj interkontinenta helplingvo! Vivu la fundamenta Zamenhofa stilo!!

La 2a Kongreso de Hokkaido submetas tiun ĉi Rezolucion al la aprobo de la XIIa Japana E. Kongreso kunvenanta en Kioto kaj instrukcias la sekretarion ke li diskonigu ĝin pere de la Esp-Gazeto tra la mondo

### 三. 写真代ニツイテ (省 略)

#### 四. 北海道エス会聯盟本部ニツイテ

提案者 菅 友 栗田三雄

現在苫ノ聯盟本部(菅友)事務所(山前). 札幌事務所ヲ遷シバ  
ツノ聯盟本部ヲ山前エス普及会ニ置ク事トス. 而シテ聯盟事務ノ一切  
ヲ中村氏ニ任ス.

その他役員若干の変更あり聯盟規程にも変更があつた. そして現在問題に  
なつてゐるのと同じ様な問題がこの時すでに起つてゐた. それは会費取扱上  
の不都合があるため札幌所長の会費をどうするかといふ事であつた. そして連盟  
はエス会だけで組織するとの立場で個人への加入は否定され. 志文の岡本義雄  
氏は札幌エス会に入会された.

#### 五. 東色分子群居ノ件

引續キ小樽福田仁一氏熱烈ナル調子ニテ未化防止及ヒ水色エスペラン  
チスト排斥ノ演説ヲナシタリ. 吾々エスペランテストニ多大ナル損傷  
ヲ与ヘ. 一般民衆ニエスペラントニ対スル誤解ヲ生ゼシメ. 唯今ノ北

現在  
木次郎  
あつた  
ベラン  
ごがす  
介子と  
ちりま  
会主義  
水運動  
エス  
レ. プル  
子とい  
ベラン  
シトの本  
当時を  
入する事  
その他  
た.  
余兴会  
吾工学  
オ2巨  
/

大東化ノ如キ事件ヲ引起シ札幌及ニシテ道ノエスペラント運動ヲ挫折セシメ、北大内ニ於テハエスペラントノ個人的研究スラ禁ゼラルルニ至リタルハ之皆教養赤色分子ノナス所ナリ。吾人ハ出来得ル限り校養赤色エスペランチストヲ排斥セザルベカラズ。福田氏ノ演説ニヨリ万端一致して赤色分子排斥ヲ申合セタリ。

現在の若いエスペランチスト、又これから先のエスペランチストはこの様な決断を何と見る事であらうか。苟もこの当時のエスペランチストが反動で折つた訳ではない。大会でこの様な決議でもして運動がなければあの当時エスペラントを根拠して研究する事さえ出来なかつたらう。札幌エス会は会場をさがす事か困難になつてた。世間の人々エスペランチストをいわゆる赤色分子と見るからである。北大事件といふのは、北大の左翼分子陣営のをばつちりを含めて、エス会は解散された事を指す。警察はエスペランチストを社会主義者並に見なしている。一方いわゆる赤色分子といふのは、あらゆる文化運動に喰ひ込んで宣伝しようとするヤツキになっている。

エス会等には一瞥目をつける。エスペランチストは本来的民主的な人達が多い。ブルジョア、資本家といふタイプの人はいないのだから考へ方は赤色分子といわれている人達とあまり大した違いはなかつた。批判的な現在のエスペランチストはもうであらう。何故赤色分子を排斥するかわりに、エスペラントの本質を堂々と声明し、警察の弾圧に強く抗議しなかつたか。あの当時それが出来たら………それが出来たら、あの太平洋ドロボ一戦争に突入する事もなかつたらう。

その他二三の小さな問題に付ての説明や突発的な出来事ニ回帰議会に終つた。

#### 余興会 (2時半頃)

語学学生会、中村君達の竹劇その他

#### オ2回講演会

#### 1 De duoleco al unueco en Bahaismo.

渡部 隆 志

アメリカ、フランス等で盛んに運動されつゝあつたバハイ教についてその基源、12ヶ条の信条并解説された。

#### 2. 初期札幌ニ於ケルエス運動

相次 治 雄

#### 3 Bona ekzemplo de la vivanteco de Esperanto

中村 久 隆

4. Pri untempa stato de J.B.L.E

藤田仁一

日本基督教エスペランティスト聯盟の歌壇

5. Andree en la poluso

植沢治雄

Per balono al la poluso といふ北極探検の語。

蘇沢山の大会講演会も終り、才三回大会は片側に決定したので招待者として番田仁一君が挨拶し、私の閉会の辞、クギーゴの合唱でこの大会は終わった。

La Retorikaj Tipoj  
de Japanaj Salutoj

—El "La Folkloraj Vortaro" de la Instituto  
de Folkloraj Esploroj. P. 1—

Tradukinto & Komentariinto:  
Noboru Hayakawa

"Aisacu"

Por signifi la saluton oni, en Japanio, uzadas la ĥinan vorton "Aisacu" importitan de budaismaj pastroj, kiuj apartenante al ĉiu kvin centrecaj tempoj en Kioto kaj Kamakura sin okupadis eksterlandan komercon inter Ĥinio kaj nia lando en la mezepoko. De l'komenco en la lando, la vorto nur signifadis la interparolon.

Antaŭe la vorto ekutiliĝis, oni ĝenerale la vorton "Mono-ii" uzadis por la sama senco. Eĉ nun estas diversaj lokoj, kie oni uzadas la vorton por esprimi

la alparolatan anoncon en ial serioza okazo.

En kamparo, ni povas ed nun rimarki la vorton "Aisacu" ofte uzatan. Tamen, ordinare oni uzadas jenajn esprimojn: "Kotoba-o kakeru" aŭ "Koe-o kakeru".

Niaj salutoj en la frumatenoj estas preskaŭ unuigoxtaj al la esprimo "O-pajoo!"\*, kiu origine sencis la admiron por la diligenteco de iu frurekiĝinto.

Por la malplifrua ellitiĝulo, oni kutime alparolas pri la vetero de la tago. Kaj, la plipostaj vekiĝintoj estas ĉiukaze admirataj\*\*, kiel "Go-Soo daŝi!" (Vole laboru energie!) en iu regiono.

Antaŭ aŭ post la tagmanĝo, oni kutimas saluti kiel "Nomi-maŝita-ka?" (Ĉu jam trinkis?) aŭ "O-ĉa a-gari!" (Vole trinku teon!) koncerne al tiuj salutoj, leetrinki enhavas la sencan de tagmanĝi.

Kiam jen elvesperiĝas, oni uzadas la alparolon kiel "O-ŝimoi-na!" en tia simpatia senco, ke ni prave finu vian laboron sufiĉan por la tago. Kaj, kiam jen mallumetiĝas, kutime oni alparolas kiel "O-ban-de gozansu!"\*\*\* (Kiam bonan nokton ni nun havas!) Tiele ankoraŭ nun rivadas la tradiciaj salutretorikaĵoj kun la diversaj enhavoj konformaj al difinitaj horoj en nia kamparo.

Ordinare la vizitanto de la lando kutimas demandi la hejmejon aŭ neeston de iu, kiel "Uĉi-na?" (Ĉu hejme?) aŭ "Iraŝins-ke?" (Ĉu bonvolas esti?) Se vizitas de post vespero, oni ĉiukaze uzas la alparolon: "Joi-ban-de gozai-masu!" (Kiam bonan nokton ni havas!) Tiu estas, de antaŭ, grato por trankviliĝi kion vizitan pro tio, ke nenio malŝelico kaŭzas de la vizito.

La salutoj por adiaŭi estas kiel "Mala-kur-ga!"

(*Refoje venas al vi !*) aŭ "Oasuk !" (*Al vi, morgaŭ !*)<sup>\*\*\*\*</sup>, kiuj estas la sencoj, ke la unua adreŝo estas nur provizora. Ankaŭ en la fremdlandoj estas la sama, ĉar ĉi estas la tabuo ne paroli al iu pri longedaŭra neintervido.

[Konsultlibro] S-ro Kunio Yanagida: "Mai-niti-no-kotoba"  
(*Ĉiutage Uzataj Vortoj*), 1946

Komentarioj:

\* Pli kompleze, oni alparolas "O-kajoo gozaimasu".

*Kaj, relate aŭ laŭmode, "O-kajoo (go-)zans."*

\*\* Pri la senco de la alparolo "Go-Soo daŝi !" la vortaro eble eraras. Laŭ "Mai-niti-no-kotoba" suprensciita P. 108, samokaze estas parolata en Sado Insulo, ke "Vole laboru energie!" He tial, hipotezas, ke la alparolo "Go-Soo daŝi !" estas plejparte la mallongigaĵo de la suprensciita alparolo. Anstataŭ la vorto "admirataj," mi sekve povus preferi la vorton kiel "stimulataj."

\*\*\* Pli kompleze, "O-ban-de gozaimasu !" *Kaj, relate aŭ laŭmode, "O-ban-de gozansu !" aŭ "O-ban zans."*

\*\*\*\* Pli kompleze, "Deŭa izure mata !" (Antaŭ nelonge mi ridos vin refoje !) aŭ "Sicurei itas-masu !" (Pardonu nin maldece reveniri !)

(*埃 塚-アヰル* 五山の神傳が中世に輸入した漢語で、元來は受け返すという意味しか付かった。この語が入る前には、モノイヒという語が多く使われていた。今でも何か改まった時の口上をモノイヒと称するところは諸国にある。地方では挨拶という語も使うが、普通は言葉をつける、または声をかけるといっている。早朝の物言いとしては、ほとんどオハヨウに統一されようとしているが、もとは早く起きたおと、相手の勤勉を感歎する意味であつ

た。少し  
シ。と勤  
茶オアが  
近くなる  
という思  
声をかけ  
挨拶の言  
と衆人の  
イマスと  
せるため  
礼がぼん  
で、水の  
る。



そる  
たい  
朝くら  
子供たち  
ひろい  
をまいた

た。少し遅くなると天気のことを言うが、さらに時刻が進むと、ゴショオダシ、と動態を私語する意味の物言いがある。昼の前後は、ノミマシガカ、オ茶オアガリなど、昼食は簡単だからお茶の中に算入しての挨拶がある。夕方近くなると、オンマヒナと、一日中よく竹らいたから早くしまおうのが当然だという慰いやりの趣つた言葉がある。薄暗くなるとオバンデゴザンスなどと声をかける。このように田舎では刻限に応じてその内容を変えているわけで、挨拶の言葉がまだ生きている。人を訪問する物言いはウチナ、イラシンスケと客人の在否を尋ねるのが普通である。夕方以後の訪問にはヨイバンデゴザイマスという語が使われる。これは自分の訪問は災いの種ではないと安心させるための死い言である。別れる時の言葉はマタクルガ、オアスウなど、別れがほんの一時のものであるとの意味を込めている。外国でもこの点は同様で、永の別れという意味の言葉を口にするのが、禁忌になっているからである。

( 参 ) 柳田園男 「毎日の言葉」 昭二 )

## 北海道こども風土記

( 北海道タイムス掲載 )



たんぽぽつなぎ

いっ ぶら ぶら  
井上 二美

そろそろ初夏とよばれるころになると、どこの農家でも、ネゴの手もかりたいほど、いそがしくなります。

朝くらくちから畑に出る、お父さん、お母さんのじやまにならぬよう、子供たちは一日中元氣よく遊ばなくてはなりません。ちょうどそのころは、ひろいひろい緑の牧場一面にタンポポが咲きだします。近くでは「いり既」をまいたように、遠くの方は黄色い毛せんでもしいたようです。

子供たちはそれを、なるたけくさを長く、一丈けんめいつみあつめます。たくさんあつめたタンポ木をもって子供たちは石神平原を歩きわたるつよい脚をさけて、まるいサイロの隅あたりのおよいところにむしろをしいて、花つなぎをはじめののです。くさの強い花を五、六本しんにして、それに一本一本まさつけてつないでゆき、よいかげんかどころでやめておにしますと、黄色い美しい花わが出来上ります。

小さい姉さんたちが、"こんどはキヨちゃんのみ。"これはエキちゃんのみ"と姉や妹たちえこしらえてやつているすがたはなんともかわいらしく、のどかなふうけいをみるようです。張りすぎで一つあまつた花わを、どうしようかと考えたすえ、そばにつながれている山羊の首にかけてやりますと、真白い山羊に黄色い花わが、とてもよくあつて、まるで金の首がざりをした女王さまのようです。

子供たちも、それぞれ花わを首にかけて、自分たちも女王さまになつたような気持で、ニコニコとうれしそうです。

タンポ木つなぎは、みじかい夏を、ほんとうにたのしみしている北海道の子供たちの、美しくかわいらしいあそびです。

## (訳) *Girlando de Leontodo*

F-ino Humi Inoue

Tradukita de s-ro Y. Yokoyama

Kiam, iom post iom fariĝas somero, ĉiuj terkulturistoj estas tiel okupitaj kiel ne esprimeble.

Tutan tagon ĉiuj infanoj devas ludi rigle eksterdone, por ke ne baras la manojn de siaj gepatroj; ĉiuj laboradas en la kampo de malluma mateno.

En tiu sezono leontodoj ekfloras sur tuta rojega verda paŝtejo. Proksime ili aspektas kvazaŭ disĝetitajn dispecigitajn rastrovaĵojn, malproksime kvazaŭ sternitan flaran tapiŝon.

Infanoj fervore ŝirpinĝas ilin kum tigaj kiel ŝble plej longaj. Eritante fortan venton plorantan sur Isihari-ebenaĵo, infanoj ekkomencas girlandoludon per multe da leontodoj, kiujn jam ili kolektis.

sternante maton de la loko suplena apud la seĝo.

Prenante kelke da floroj kun longaj ŝtangoj kiel centro, la infanoj ĉirkaŭligas ilin unu post aliajn al ĝi kaj kunligas. Nun ili faras ĝin ringforme do farigas bela flava girlando. Tio estas aminda kaj kvieta vidaĵo. Ke pliaĝa fratino faras girlandojn, dirante. Nun, por Kioĉjo, tiu ĉi por Yukinjo, por plijunaj gefratoj.

Ili embarosiĝas kiel disponi vastan girlandon tro farinta, kaj fine ili pendigas ĝin al la kolo de la kapro benata apude. Flava girlando kontraŭ la blanka felo estas tute konforma, kaj ŝi estas kvazaŭ regino kun ora kolĉeno ĉirkaŭ sia kolo. Ankaŭ ĉiu infano pendigante ĝin al sia kolo ŝajnigas sin kiel se regino kaj ridetas radiante.

Girland-ludo de Leontodo estas bela kaj aminda ludado por infanoj, kiuj elpore sopiras kun ĝojo mallongan someron.

(38)

## Girlando de Leontodo

Fino Humiko Inoue

Tradukinto:

S-ro T Takahashi

En nia nordlando malfrue venas la sezono "frusomero" kaj tiam ĉiuj komparanoj farigas tiel okupataj kiel oni bezonus ĉi helpon de kato. (Kiel ili volus prunti ĉi la manojn de kato)

Ni geknaboj devas ludi eksterdome tutan tagon por ne malhelpi niajn gepatrojn kiuj laboradas de ortakultarigo en la kampo.

Ĝuste en tiu sezono florigas leontodoj sur tuta verda kampo. La vidaĵo estas kiel disŝelataj



rosoroj en proksimo kaj kiel disvolvita flara tapiŝo en malproksimo.

Ni konkurante kolektas ilin kun tigoj kiel eble plej longaj. Kaj poste ni sidigas kun plene kolektitaj floroj sur pajlmaton elvolviton apud sunplena flanko de altcylindra "sajro" (furaĝejo) por sin mi nin de ventego forte bloranta sur Isikari-ebenaĵo.

Nux ni komencu fari girlandon de leontodo.

Unue ni faras medolon de kelkaj plej longaj tigoj kun floroj kaj lige volvas al ĝi aliajn tigojn unu post alia ĝis ĝi fariĝas sufiĉe longa. Kaj tiam ni konektas ĝiajn finojn kaj faras ringformon. Tiel fariĝas belaj flavaj girlandoj de leontodo.

Estas tre aminde kaj paceme vidi pli aĝaj knabinojn kiuj donas ilin al junaj gepatroj dirante: "Ci tiu estas por Kiĉjo, alian mi donos al Junjo.!!" Ili pripensas aŭ ĉiu ili donos ceteran girlandon faritan tro multe kaj fine ĝin metas ĉirkaŭ kolan de la apuda kapro. Flava koloro de la girlando tre bone harmonias kun la blanka felo kaj ĝi aspektas ĝuste kiel bela reĝino kun ora kolĉeno.

Nun ĉiuj geknaboj portas flavajn girlandojn sur siaj koloj kaj ili estas ridetante ĝoja pro ke ili ankau sentas sin kvazaŭ regino.

Farado de girlando de leontodo estas bele-ta kaj aminda ludo por geknaboj en Hokkaido kiuj atendas tiel zorge mallongan someron.

札幌神  
つれられ  
て下さっ  
に水筒を  
ツクは、  
雪子ちゃん  
取をさがし  
るびろと  
ごくのきし  
すぐそばに  
雪子ちゃん  
とちゆりて  
すずらん  
ちゃんは  
す)のま  
そして  
見るがけ  
はとらぬ  
すずらん  
の人たちに  
あまり喜ば  
ずらんは水  
かけです。

(訳)

En i  
unu el la  
ino abom

## すずらんがり

福 語 集 短

札幌神社のお祭りか近づいたある日のこと、雪子ちゃんはお母さんたちにつれられて、すずらんがりに出かけました。雪子ちゃんはお母さんがつくって下さったおべんとと、キヤラメルを小さなリュックサックにつめて、肩に水筒をさげて汽車のりしました。都会の子供たちにとってこうしたピクニックは、学校の遠足や運動会と同じぐらいに楽しいものです。

雪子ちゃんは、はじめのうちはめずらしがって一注けんめいにすずらんの花をさがしていましたが、一時間たつと、すこしおきてきましたので、ひろひろとした顔のレとおのまん中に寝ころんで、青空にうかんでいる雲のうごくのをじつとながめていました。ふと気がつく、雪子ちゃんの寝ているすぐそばに一本の咲きかけたすずらん水筒をあげてこっちを見ていました。

雪子ちゃんは一度ころんと、ころがって花に近づいてとろうとしましたがおとちゆうで、のびしかけた手をひっこめて、しばらく花を窺つていました。

すずらんは春のそよ風にゆれて、静かにおいでおいでをしています。雪子ちゃんは、すずらんを見ているうちに、本当にこの花は名前通りの、優(すず)のよらかなたちをしているかわいらしい花だなと思いました。

そして野原の花は、家へもつて帰つて部屋の中におくよりも、青空の下で見るとがずつと美しいなと驚くようになりました。それで、さよふはもう花はとらないことにしようと、きめました。

すずらんの花がかわいらしくて美しく、しかもよい香りがあるので、都会の人たちには大層珍らしがられ、大切にされていますが、北海道の薬材では、あまり香ばれぬ植物の一つになつて居るのです。なぜかといいますと、すずらんは火山灰地や泥炭地など畑にならぬような悪い土地に生える植物だからです。

(歌) *Mia Kolektado de Florantaj  
Konvaloj*

S-ro Yosutomo Hiro

Tradukinto: Noboru Hayakawa

En la tago jam baldaŭ al la festo de "Sapporo Tenja",  
unu el la plej grandaj sanktejoj en Hokkaidoo, Tukiŝi-  
ino akompanato de siaj pliaĝaj fratinoj, ekiris el sia

domo por kolekti konvalojn. Si enragoniĝis, portante sian dorsosaketon de luno kaj karameloj, preparite de sia panjo, kaj botelon sur ŝultro. Por geknaboj de la urboj en nia regiono, tia pikniko estas preskaŭ tiel gaja kiel la urboj en nia regiono, tia pikniko estas preskaŭ tiel gaja kiel la ekskurso aŭ sporta kunveno.

Komence, Jukiĉjino per ĉiuj fortaj serĉadis la floretojn kun miro, tamen preskaŭ post horo, ŝi iam eklacigante kusigis meze de la kusenon rasta kaj verda, kaj do kviete ekrigardis movojn de ŝvedantaj nuboj sur la ĉielo. Hazarde ŝi eksciis, ke unu ekfloranta konvalo, levante sian kapon, sin rigardis apud ŝia kuŝado.

Jukiĉjino, unufoje ruliĝante proksimen al la floreto, volis ĝin eltiri. Tamen, ŝi duonfare retiris sian eketendantan manon, kaj do rigardis ĝin por mallonga tempo.

En printempa brizo, tiu skuiĝis la konvalo, kaj ŝajnas al ŝi alvoki per ĝia mansigno kiel ŝi venu tien. Jukiĉjino alrigardante pensis la floreton bela pro ĝia simileco al tizi letaro, kiel ĝia nomo "Suzu (tizi letaro)-ran (orkideo)" montris al ŝi.

Kaj plie, ŝi ekkliniĝis pensi, ke la floroj de la kampoj estas ĝenerale pli belaj sub la blua ĉielo ol tiuj donen alportitaj kaj ĉambre rigardataj. Do ŝi decidis, ke ne plu ŝi eltiru la floron.

La konvalo estas mirinde rigardata kaj prizorgata per la urbaroj, kaŭzite de ĝia ĉarma beleco kaj bona parfumo. Sed tamen, en kamparaj niĝaĝoj de Hokkaido, ĝi estas unu el la neĝojebraj vegetaĵoj, ĉar ĝi kreskas sur la malbona tero neuzebla por la kampo, kiel la vulkancindru tero kaj torfo.

(Fino)

私水  
— 19  
リホイ  
ように  
夫人と  
や華語  
らつて  
たま  
だのい  
かけて  
その  
13年  
脚刑13  
にいホ  
その  
考まに  
私は早  
かつて  
K  
/  
このこ  
附裏を  
す。せめ  
て、この

## 郵便スタンプの国際化について

由仁 新田 逸男

私がかつて、国際文通に非常に熱を入れていた昭和12-13年(1937-1938)当時、私の文通相手は、若岩男女会せて45ヶ国の60人ばかりいました。そのうちでも、一番美人で、エスペラントも母国語と同じように家庭でも使い文字も大へん上手だったフランスの *Renée Bergereau* 夫人とは、斯く親しく文通していました。フランス語やエスペラントの書籍や雑誌がほしいときには、何時も、*Renée* 夫人宛に送金して、送つてもらっていました。

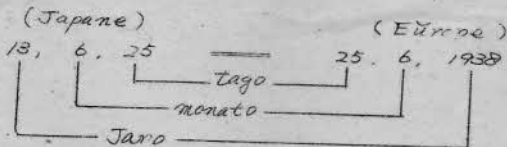
たまたま、国際通信切手を送つたところ、あちらの郵便局で、すつたものだのいささつがあつて、やつとのこと、説明にならない説明で、どうにも受け取ってもらつた様子が、*Renée* 夫人からの手紙に書いてありました。

その返信切手におかれている当地の郵便局の日附は、13. 6. 25 (昭和13年6月25日)で、あちら読みすると、1925年6月13日となり(昭和13年は1938年に当る)もう13年と前の古いものは受け取るわけにいかない、というのがあちらの郵便局員の言い分らしい。

そのいささつについての *Renée* 夫人からの手紙の一部を原文のまま転考までに次にかかげます。

私は早速、次のような解説を、各々ど、日本とヨーロッパの両方とのかつていところなどを書いた手紙と一緒に送りました。

*Klarigo de dato stampita sur rpk.*



*Uzuta nur en Japanujo,  
nomo de eras es. Soŭa.*

このこと以外、国際通信切手を送る時は、何時も、必ず上記のような解説附箋をつけているので、その時のような間違ひも起らないで、すんでおります。せめて、国際的に使用する場合だけでも、郵便の日附にすることによつて、このような高處へい間違ひも起らなくてすむだろうに、と常に考え

させられます。

尺夫人からの手紙の一部：

----- ke oni pagu la 2 respondkuponojn, mi iris u-  
ue al la postoficejo, tie oni avertis min ke ili ne  
plu estis valoraj, mi protestis dirante ke mi fus  
ilin ricevis, oni montris kiel pruvon, la stampo  
kaj efektive mi devis klarigi, ke ĉiuj viaj stam-  
poj havas la nombron 13, t.e. sur la stampoj de  
l' respondkuponoj estis legebla 13.6.25 do mi leg-  
as inverse 25 de Junio 38, ĉu ne? Sed la pos-  
tovicistoj legis 13 de Junio 1925! Laŭ miaj  
konvinkantaj paroloj, li duonvole pagis. Jam  
mi ne plu pensis al tio, mi forvojaĝis dum 3  
tagoj, sed rehejmiĝinte mia bopatrino alportis  
al mi la du janajn respondkuponojn, kuzin ŝi dev-  
is repagi al la postovicisto. Malkontenta kaj e-  
ĉonete kolerema mi iris al la postoficejo, sed  
antaŭe mi zorgis kuaporti rian unuan karton  
ricerintan la unuajn tagojn de Januaro kies  
stampo estis 12.12.6 kaj du el viaj korertoj  
kies stampoj estis tre videblaj, ree oni pagis al  
mi la ŝulditan sumon, sed oni konservis la karton  
kaj unu korerton por sendi kiel atestigilojn al  
la direktoro, mi preskaŭ ridis, ĉar la sumo astis  
malgranda sed granda aŭ ne, estis necesa agi ti-  
ele. Ni ne plu pensas al la postovicistoj, sed ni  
petas kiel, kiamaniere vi nombras la jarojn?  
Ĉar 13 = 1938? kaj viaj jaroj estas tamen 365 1/2  
tagoj? kaj 12 monatojn? mi estas tre danke-  
ma se vi klarigos tion al mi-----

私は  
とぞは  
、私は  
はごく  
題に相  
私も  
のであ  
書零や  
借題や  
る誰に  
エス  
つたタ  
知られ  
水に張  
俗人間  
人間  
下、自  
天。と  
自由が  
。して  
あきて  
業による  
ないか  
Aが日  
あつて  
またま  
道、当  
しろせ  
評論物  
。その

## ぐち-やら-がんもう-やら

山本昭二郎

私は個人取巻はせらいである。せらいであるということではないということではないが、でも私自身個人取巻をされることは意に介しな。何故なら、私は自分が不完全極まる人間であり、見かけの品行はよく見ても、正味はごくつまらぬ、エゴイストチックな男であり、むしろ人々の非難、軽蔑、憎悪に相応する方だと思つてゐる。

私も人を瞬間的に軽蔑し、憎むことはある。けれど、それはせつね的なものであり、やがては全く忘れてしまう。しかしある人に知して、しばしば、憎悪や、軽蔑がくりの文さける時は、その人を見る毎に、反動的に理由なく憎悪や、軽蔑を人にする筈になる。人間には多くこういう欠点が発露している筈に思われる。

エスペランティストの中には実にいろいろなタイプの人間がいる。むしろ変わったタイプの人間が多いかも知れない。その道の権威として世界にあまねく知られている者もあり、人間として魅力ある人もあり、又一方、えたいの知れぬ耽業や、信念の人もあり、無慈悲な好人物もある。ともかく種々な人間がある。

人間が好悪の感情をもち、それを表現するのは自由である。ただ、人間達は、自らの人間社会の円滑な運営のために「してはならぬこと」を約束した。たとへば殺人、リヤくだつ、強姦、放火、など。人間が意を表現する自由があつても「してはならぬこと」の約束を先ず守つた上での手である。してみれば、あいつを殺したいと思つてそれを実行することは人間社会のおきて—人間達のきめた約束—に反することである。しかし一般的には、言葉による表現は、行為による表現についてほど罰が重くない。むしろ全くないかも知れぬ。

AがBの悪口をいつても人間社会はあまり罰しない。くどいわけ日本国にあつては)もしその悪口が周囲の者に届いたるていのものであつたり、たまたま非難されたBが周囲からうとまれている場合、Aは、その一方的非難、当人を前にしてないでせざる非難に対して別にどうともみぬ。むしろそれに相応することが多いのであるまいか。

評論家として有名な某氏がEsperantoのことを悪しく言つたぞうである。その某氏の発言は日本ではなかなか影響力があり、某氏の部下や弟子がこ

の国の言論界に無敵にいて、しかも中堅的な活躍分子であったりするので、Esp. 運動のために某氏の発言は一般的観点からすればなかなかのマイナスであった。

某氏の弟子たちが、その某氏の“信念”を金科玉条としているのもしれぬ時は尚更である。私は思う。某氏は Esperanto を知らず、たまたま一人、二人の Esperantisto を知つて、Esp. も Esperantisto も一緒くたにしてしまったのではなからうか。

私の知る限りでは某氏は Esperanto を学んだことは勿論ないし、その思想についていささかも造詣がない筈に思われる。某氏はきつとたまたま濫用した Esp-istista から何の同氏の個人にされる様な言動を受けたに相違ない。そして以て同氏に、Esperanto にも感情的になつたのであらう。

著名な某氏にしてこの位であるから、一般の市民連の中にも、某氏の様に、Esperanto に対して、感情的になる人もなほ多いのではないが、彼等には共通した誤りがある。エスペランチスト—エスペラントという式である。これは 共産党員=共産主義 という考へ方とそっくり同じである。Esperanto は支持するが、Esperantisto からは eviti(避ける)する、というならまだ話がわかるが、しかしこの場合、個々の Esperantisto に尊敬してそのいづれにも好もしくない気持を感じた——上をなれば、そういう言明はつしむべきであらう。“私はエスペランチストに失望した。”と言明するのは自由であるが、果して彼は、エスペランチストと名のる人達のピンからキリまでと尊敬した上での見解であらうか。たいていは、4~5人の身辺のエスペランチストに接し、そういう人達の雰囲気から、みんなこんなものなぞをばらばらと、とりつて結論するものが普通ではあるまいか。これはあまりにも“日本的”である。私のこういう説き方からすれば、かの高名な評論家“某”氏も独めて“日本的”な人物である。

日本にもエスペランチストの数は多い。しかし、その思想、生活、語学か、至學、いろいろな教養、そして性狀、などによつて、人物として、主義者として、又人向として、いろいろと対者に感受されるわけである。

日本人は100%のエスペランチストになるには、今日の段階では逆も無理である。むしろ面談のものといつてよいその文法構造に充分な要求をかんげぬ弊になるためには、なほ何百年もかゝるだらう — 日本語が日本的である限りは —

私達がエスペラントの理想や、現実を人々に説く時、私達エスペランチス

ト連の  
て、私  
と抱負  
スペラ  
ントを  
案料と  
く、も  
「何か  
—」

Esper  
とか、入  
-nto の  
依する  
うことに  
だが実  
じけつ  
もつと  
ると、症  
とわ語系  
簡単に  
Esper  
が-O、  
のが、動詞  
詞がとい  
そこで、  
てきた品詞  
これが「E

ト達の運達している種々の大きな困難を率直に語らなければならぬ。そして、私達がかく辛苦しつゝ、も尚 에스ペラントの理想に献身する私達のほこりと抱負をそれとなく知ってもらうべきであらう。私達はあまりにも疑念のエスペランチストでありすぎる。なかにはそのロマンチツクの故に、エスペラントとしている者もあるであらう。郵便はともあれ、純粋に 에스ペラントの発祥と発展の意義を考へる時、私達は、私達が主義者として出来であるため、もつと行動的ではなければならぬことに気づく。そして「急がなければ」何かしらとりかえしのつかぬことがおこりそうは果がする。何と急ぐのか。——「何かしらを」。

## Esperanto 学習への手助けに

(私 機)

アリマ・ヨシハル

Esperanto わ、自国語を除けば、世界中で一番やさしいコトバです。よか、入学試験勉強をするつもりで毎日ミツチリヤれば3ヵ月で Esperanto の読み書き話ができるようになるといひながら Esperanto の宣伝をする、大抵の人は、では自分も Esperanto を始めてみようといふことになる。

だが実際始めてみると、宣伝ほどにはやさしくないという感じをうけ、あじけつくようだ。現にわたしもそうした感じを持つて一人だから確かだ。

もつとも Esperanto わ他の英語、ドイツ語、フランス語などには比べると、確かにずつとやさしいコトバである。しかし何と云つてもニッポン語とわ語系のちがった外国語のことだから、ニッポン語をおぼえるようにそう簡単にはいかぬ。

Esperanto を習いはじめて、まごぶつつかるのがコトバの語尾変化だが、*-o*、*-a*、*-e* の中のどれが副詞、名詞、形容詞のそれぞれの語尾なのか、動詞語尾の *-as*、*-is*、*-os* などでどれが未来で、どれが現在動詞かということは初めの間は仲々おぼえられない。

そこで、いままでにわたしが Esperanto の手ほどきをするときに使つてきた品詞語尾や単語の簡単な覚え方を以下すこし述べようと思う。もしもこれが Esperanto の手ほどきにいくらのでも参考になればどしどし利



用して Esperanto を広めていただきたい。なお品詞語尾の覚え方はエスペラント四週向に出ているものをそのまま参考にさせてもらった。

○ Esperanto を初めておぼえる人でも名詞の語尾がーo であることは知っているので名詞語尾をおぼえることはそう苦労しない。

エスペラント四週向に書いてあるように L monŝo (物) や Kotŝo (手) を示すコトバだから o で終るとおぼえるのはいい覚え方である。

○ 形動詞の語尾ーa を L migotang, rippang の a でとっておぼえる。

○ 副詞のーe を L ŭaratte, kuruŝinde の e でとっておぼえる。

○ 不定法のーi を L on'okuri, sooroo の i でとっておぼえる。

○ ーas, ーis ーos の現在, 過去, 未来の動詞語尾をおぼえるに先き立ち まづ考えておくことわ、L 人間的現在に生きるために過去をめぐりみて、未来をすすまなければならぬから、現在の次は過去、その次が未来だと現在、過去、未来という順序をハツケリ頭に入れる。次に as, is, os の a i o の順はアルファベットで a が一番で s i が次ぎ、o が最後になっているその順をおぼえておき、現在, 過去, 未来の順と as, is, os の順とを結びつけて、as が現在, is が過去, os が未来とおぼえる。また語尾わ kikimasu, okikisita, kiki mosoo とおぼえるのも一つの方法だ。

○ 仮定法の語尾ーus を本当のことをさうでなく usŝo のことをいうのだから us とおぼえる。

○ 命令法の語尾ーu を meizu (命ず) の u であるとおぼえる。

エスペラント四週向には Esperanto からうける語尾の感じわ

Ŭaga ĝisana ootoo ŭa buĝide kuraŝi orimas(u) というニッポン語からうける感じと同じようなものとおもえばよいと書いてあるが参考になるとおもふ。

次に接頭字と接尾字の一部の覚え方について書いてみよう。

○ 接頭字の malー わ正反対、マル反対を表わすから mal とおぼえる。

○ geー わ genan, geŝo (下男, 下女) の ge とおぼえる。

○ boー わ痛痒してうれしさに boッ となる両柄になるのだから bo とおぼえる。

○ 接尾字の女性を示すーinー わ男性わ男, 女性わ女の in とおぼえる。

○ 度合の強大を示すーegー と弱小を示すーetー をおぼえるにわ、ゴトゴト、ドンドンとニゴル音は大きく、コトコト、トントンとニゴらない音は小さ

い願いを  
のを示し  
○ 遊興  
える。  
○ -ig-  
うがし意  
る。  
○ 分教  
on わ天  
想し、ま  
淫想して  
○ -aŝ-  
○ 分詞  
os にな  
過去のご  
○ -ĝj-  
、女子は  
る。

以上の  
と、これ  
すすむこ  
とこの  
をおぼえ  
ればいい  
られな  
ないのだ  
Espera  
げて説明  
○ Esp  
くはいい  
なくから  
○ ギモン

い原じを与えることから eg. et を比較して、eg とニゴる方が大きいものを示し、et とニゴらない方は小さいものを示す接尾字だとおぼえる。

○ 遊具を示す -il- わ、遊具は何がするときにイルものだから il とおぼえる。

○ -ig- (-に作る) と -igi- (-になる) わ、し 意地になる」とは言うが、し 意地にする」とわきわないう *igi* の方が し になる」のだとおぼえる。

○ 分教名詞を示す -on- と 他教を示す -obl- わ次のようにおぼえる。  
on わ英語で 上 ということであること、分教わ数字の 上 に数字がある形を連想し、また obl オブル宿という英語の doble ダブルと似ていることから連想しておぼえる。

○ -aĉ- わアマツチヨ (*amaĉo*) の aĉ とおぼえる。

○ 分詞接尾字の *ant, int, ont, at, it, ot* わ動詞語尾の *as, is, os* にならつて a のつく *ant, at* わ現在のこと、i のつく *int, it* わ過去のこと、o のつく *ont, ot* わ未来のことと示すとおぼえる。

○ -ĉj- と -nj- わどちらが女子のか男子のか初めは区別がつきにくいのが、女子は *nj* (*njnin*) だから *nj* の方が女子につける愛呼だとおぼえる。

以上のような覚え方を話しながら Esperanto の文法を説明して行く、これを案外おもしろい、やさしいコトバだという安心感をもって勉強がすすむことうけあい。

とこのコトバでもそうだが外国語となると何よりもまず舌になるのが単語をおぼえなければならぬこと。これが大抵の人わ単語わイクツ位いおぼえればいいのかと、シリゴミする。しかし外国語を纏う以上わ単語暗記わさけられぬこと、単語を知らなければその外国語をマスターすることわ出来ないので、単語暗記わぜひやらなければならぬことを説明して、ただ Esperanto わ他の外国語に比べておぼえやすいことを次のような例をあげて説明する。

- Esperanto になニッポン語から連想しておぼえられる単語も少くない。手わ *mano* 手(魔の手)とおぼえる。ニワトリわ *kok*、*kok* となくから *kok* とおぼえ、心わ *kokoro* → *kor* とおぼえる。
- ギモン詞の *ĉu* わ文の初めに *ĉo*。つけるから *ĉu* であるとおぼ

える。

○ 近称を示す ĉi わ ĉikaj 意味を表わすから ĉi とおぼえる。

○ Ĉapo わ シズツポゼフチナシ帽、Ĉapelo わ Ĉapo に el のフチがある  
ので中折帽のようなフチつき帽とおぼえる。

○ 球の sfero わ、球わ丸ッこくスフェツとしてゐるからスフェーロ、苦  
しみの sufero わ スウフェーロと発音するので sfero よりわ発音しに  
く苦痛を感じるから sufero が苦しみて sfero が球だとおぼえる。

○ コーモリわ夕方 vespero に出て来る動物だから Vesperto とお  
ぼえる。

以上のような風におもしろおのしく説明すると、初めおじけつていた人  
も、ぞわ一つ Esperanto を本腰でやってみようという気になる。

ところで、いまだにわたしがつかりまちがうコトバに、近いと遠い、左  
と右、開めると閉めるがあるが、これらは次のようにおぼえればいい。

○ proksima と malproksima と比べると malproksima の方が  
字数が多く字面が長いから遠いとおぼえる。

○ dekstra と maldekstra わ、maldekstra-dekstra, maldek-  
stra-dekstra (ヒダリミギ、ヒダリミギ) とリスミカルに唱えてみて、  
maldekstra が左、dekstra が右だとおぼえる。

○ マドヤドアーわ閉めるより開ける方が舌勞する。fermi と malfer-  
mi を比べると malfermi の方が字数が多いので読み書きに舌勞する。  
だから両方を関連させて、malfermi が開けるだとおぼえる。

Esperanto を教えてよくたづねられることわ、どれ程の単語をおぼ  
えればいいのかということである。それに対してわたしわ次のように答えて  
いる。

「Esperanto わ品詞語尾を变化させたり、コトバの頭やおしりに添  
えコトバをしたり、コトバとコトバを組合せたりして新しいコトバを造り  
出すことが出来るので、他の外国語に比べるとおぼえる単語の数わグット少  
くてすみます。例えば、san (健康) という語根を品詞語尾の变化をさせれば、  
たった1つから9つの単語が生まれ出て、mal という接頭字を添えれば  
病氣に関する新しい9つの単語が出来ます。こうして san たった1つの  
語根に接頭字、接尾字を添え、それぞれ語尾を变化させれば、Fundament-

o de Esperanto にあげてある sano に関するコトバが日本語ですから、以上の単語をおぼえたことになります。

Esperanto でわ語根を 300 も知っておれば、だちに 1 万語以上を立ちどころに会得したことになります。もつとも、父という patro のような語根を patras という動詞にわはらないので、品詞の 9 通りの変化などの細根にも適用されるわけにわいかないことになります。しかし適用できないというのを Esperanto 以外の国語から見た場合であつて、Esperanto 界でわ全単語に適用できるのです。

ここに scienco (科学) というコトバがあります、Esperanto 界でわこの scienco を規則どおり 9 通りに屈尾変化ができます。ニッポン語でわむかしわ「科学する」という科学を動詞化したコトバがなかつたので sciencas を發明出来なかつたのですが、いまわ scienco の 9 つの変化を全部訳すことが出来るわけです。

また、松崎英巳著「エスペラントやさし読み物」中の「全留博士」にわ博士 doktoro を動詞化した doktoris というコトバがあり「博士つて」と訳してあります。博士つたでわその意味がしつくりしませんが、使っているうちに一定の意味をなして来るでしょう。

このように Esperanto 界でわどの語根でも 9 通りの語尾変化が出来ますが、それに対する適当な訳語がニッポン語その他の国語にわ不足しているわけです。結局 Esperanto を各国語の従来の遊び方を指示しているようなものです。将来ニッポン語にも父を動詞化したコトバが生れ出たときに Esperanto の patras が生きて来るわけです。

これでわたしの話を終わりますが、皆さまが Esperanto を教えると、学ぶときの手助けにはれば幸いです。

139

Raporto pri la propagando vojaĝo

北海道及東北地方十三市への宣伝旅行

Nia Instituto organizis propagandan kampanon por vendigi la nordan parton de nia lando. La kalendaro konsistis el kvin samideanoj. Kaj ili ekveturis norden la 26an de majo kaj en 13 grandegaj urboj en la distrikto faris propagandajn paroladojn kaj tie ankaŭ paroladis pri Esperanto al multegaj lernantoj de tieaj mezgrandaj lernejoj. La nombro de l' auskultintoj de iliaj paroladoj atingis sume 19220. Kiel ili laboradis kaj kiam sukceson ili faris, vi povas vidi en la sekvanta raportaro, kien ili tetero raportis al la instituto.

140

La 31an tagon

Je 11. ni trame iris al Hakodate urbo. Je 12.30 en Hakodate-liceo parolis s-ro Okamoto antaŭ 700 lernantoj. Je 14. en Hakodate-pedagogia lernejo s-ro Tojokaita parolis antaŭ 500 lernantoj. Je 17. tieaj samideanoj okazigis konvenigan festenon por ni en Gotoken.

Je 19.20 - 21.30 propaganda parolado por urbanoj en Urba Publika Salono. (S-roj Saito, Takakutia, kaj ni ĉiuj paroladis antaŭ 170 p.)

Je 22.15 forlasis Hakodate-Statidomon, aliaŭinte samideanojn.

141

La 1an de Junio

Je 6.33 elvagoniĝis en Otaru-urbejo, -vizitis la redaktejojn de Otaru Simpur, sub kies helpoj ni povis havi sukcesojn en Hokkaido. Je 13.20 s-ro Okamoto parolis antaŭ 120 lern. de Otaru Harproduktaja-lernejo. S-ro Nakamura parolis antaŭ 400 lern. de Jissen Knabina-

141

liceo. S<sup>ro</sup> Tojokaŭa veturis al Sapporo por preparo. Je 15, S<sup>ro</sup> Iŝiguro parolis antaŭ 200 lern. de Otaru - urba - knabina - liceo. S<sup>ro</sup> Okamoto parolis antaŭ 250 lern. de Midorigaoka knabina liceo. S<sup>ro</sup> Nakamura parolis antaŭ 900 lern. de Otaru komerca liceo. Je 20. Onvide- anĝ de Otaru paroladis.

#### La 2an tagon

Je 8.40 en vagonigis ĉe Otaru-stacidomo kaj veturis al Sapporo por tie fari paroladojn. Je 11. S<sup>ro</sup> Iŝiguro parolis antaŭ 950 lern. de Sapporo knabina-liceo en Sapporo. Je 16.30 ni ĉiuj ragono revenis al Otaru. Je 19.10-22 paroladego por urbanaj en Otaru-Kongre- gacia Preŝejo. (s<sup>ro</sup> Iŭatate, Fukuta kaj ni kvin, parolis antaŭ 180 p.)

#### La 3an tagon

Je 8.40 ni forlasis la urbon Otaru kaj ve- turis al Sapporo. Je 10. alvenis al Sapporo Je 12.30 s<sup>roj</sup> Okamoto kaj Nakamura parolis antaŭ 50 lern. de Ĉōzogaŭara-agronomia -liceo, kiuj gastigis en nia hotelo. Je 17 bonvenigan festonon por ni okazigis tieĝ samideanoj en Jūgotei. Je 19.20 parolado por urbanaj en la fama salonego Tokeidai (s<sup>ro</sup> Takamacu kaj ni ĉiuj parolis antaŭ 400 p.)

#### La 4an tagon

Je 5.30 S<sup>ro</sup> Sasaki reveneturis al Tokio, ĉar li havis multajn urĝajn aferojn en Tokio. Por ni estis granda bedaŭro, sed ni ne povas restigi lin. Je 10. vizitis prefektejon de Hokkaido.

Je 13. S<sup>ro</sup> Tojokaŭa parolis antaŭ 80 p. de Sapporomemregada-kursejo kaj Sappor-indust-

ria-kursejo. Sro Isiguro parolis 850 lern. de Sapporo-urba-knabina-liceo.

Je 14. Sro Tojokaŭa parolis antaŭ 900 lern. de Sapporo-pedagogia-lernejo.

Je 19 enragoniĝis por veturi norde kaj adiaŭis samideanojn tieajn kaj la mastron de Sapporo-rodo-librejo, kiu bonkore helpis nian movadon kaj disdonigis 200 afisegajn kaj 5000 afisetojn, kiuj anoncas pri nia propaganda parolado. Sro Nakamura restis en Sapporo ĝis la 7a tago por interpreti la paroladon de Sro Rose, angla samideano, kiu parolis antaŭ 120 studentoj de Hokkaido Imperia Universitato je la 15.30 en la 6a tago (sukcesplene)

Je 23.27 elvagoniĝis en Asahigaŭa.

La 5an tagon

Dank' al la memoriga festotago de milite-mortintoj en tiu ĉi urbo ĉiuj atentaj de l'urbanoj estis tiritaj al tiu festo, sed ni klopadis alĝluinte afisegajn. Je 19.30-21.30 parolado por urbanoj en la salonego de l'urbojicejo. (Sro Fujiŭara, Hoŝi kaj ni, tri, parolis antaŭ 70 p.)

Je 11. Sro Nakamura, kiu restis en Sapporo, parolis antaŭ 900 lern. de Sapporo-urba-liceo kaj je 10 li ankau parolis antaŭ 700 lern. de Sapporo-dua-liceo.

La 6an tagon

Je 9. Sro Isiguro parolis antaŭ 650 lern. de Asahigaŭa knabina-liceo. Je 10. Sro Okamoto parolis antaŭ 800 lern. de Asahigaŭa-liceo. Je 11. Sro Tojokaŭa parolis antaŭ 800 lern. de Hokkaido-urba-liceo. Je 13.40 envagoniĝis kaj alvenis Muronan je 21.35

(以下略)

番 太  
藤 定 三  
洞 三  
港 一  
木 津  
西 田  
吉 田  
興 太  
山 實  
早 川  
高 港  
中 沢  
池 貴  
江 口  
山 本  
土 田  
前 田  
芥 藤  
薫 田  
長 岡  
河 野  
渡 辺  
田 里  
小 川  
菅 康  
工 義  
派 訪  
井 琳  
新 田  
大 村

# 北海道工スベラント連盟会員名簿

N-1011 ≡ ヴ ヴ ヴ (N-1011 12名)

高木 貞夫	札幌市南13, 西13 吉村方
藤近 庄次郎	“ 北16, 東109
洞庄 有候	“ 北12, 西14
池一 一郎	美幌市南美幌町三井下4英4丁目右1号
木津 誠雄	旭川市一茶通7丁目左4号
西 忠雄	札幌市北10, 西2北大工学部建築工学科教授
吉田 榮	函館市舟町43
後木 政次	小樽市福祿町東7の25
山賀 勇	“ 花園町東3の11
早川 昇	“ 緑町202
高橋 達治	“ 桜町307
中沢 天照	“ 花園町東4の22
北条 与三吉	“ 緑町5の28
江口 哲吉	“ 真沢町4の22
山本 昭二郎	“ 清水町34
土田 龍幸	“ “
前田 洋一	“ 花園町西2の17
斉藤 群	“ “ 東2の12
藤田 弘子	“ 祖里新光町
長岡 弘子	“ 重徳町25 井草社管内
河野 于工子	“ 汐見台町9
渡江 正	岩見沢市ニ工茶東2丁目
西里 壽彦	札幌市南16, 西5
小川 信昭	“ 北10, 西3, 副江幸方
菅原 鉄雄	秀祐郡上厚真局区内上岡文
工藤 薫尚	東京郡比多摩郡国立町東区95
浜訪 昌久	札幌市 南3, 西21
井端 秀雄	夕張郡栗山町立南豊田小学校
新田 勇誠	夕張郡市仁町字三川
大 村 誠	“ “



村 上 隆  
外 山 雅 子  
張 登 晴 央  
岡 武 富 子  
伊 藤 秀 隆  
窪 田 淳  
田 辺 至  
藏 原 祐 吉  
瀧 井 沢 司  
高 屋 宣 子  
早 坂 基  
渡 辺 由 美

ア 浜 町 古 川 町 三 三 川  
。 。 宇 古 川  
。 。 宇 古 川 端  
。 。 宇 古 川 木  
。 。 宇 古 川 山

支 那 湖 高 区 内 千 代 オ ー 亮 燈 竹  
兩 邊 野 深 川 野 東 野 深 川 東 野 棧 寮 内  
沼 館 市 港 野 鐵 道 歌 比 鐵 道 公 會 185 号 の 2  
岩 見 沢 市 4 番 地 15 丁 目  
私 権 市 北 20 番 3  
。 南 2 西 25 野 政 局 産 業 部 内  
沼 館 市 名 前 町 24 西 別 墅 出 張 所 内

目下会費  
まだ野区会  
6月/7月

(水  
会費  
野区  
会費  
野区  
会費

以上の会費  
一枚の券

お 願 い と 報 告

祝園施レオントードを年一回発行するために、会員の皆様に御義責任者より  
次のことをお願致します。

「オーに取組のこど。首取の取組もなくは発行したくとも発行出来ない次  
才です。毎度同じ人にお願して誠に恐縮しております。皆さん方の御同誌で  
すからエスプラントに御便があれば和文エス文何れでもレドレ郵投購下さ  
い。補切日は別に設けません。何を着いたらよいかとよく言はれるのですが  
「エスプラントを学び初めた動機と私の先生」「エスプラントに関して一番  
興味深いこと」の二題は如何でせう。何時、どこで、誰に、どうして初めた  
か報告でも結構です。当時の状況なども詳しく書いて頂ければ尚結構です。古  
い人、新しい人たちのこの時集が出来たらと思ひます。

次に費用のこど

(支出予定)

(収入予定)

印刷代	3000X4 = 12,000	会 費	70^ 200 = 14,500
送 料	800X4 = 3,200	寄 附	1,500
振 替 料	300		
計	15,500	計	15,500

~32~

祝 園  
★ LEONT  
★ 水 枝  
★ 原 野  
★ 原 野

目下会員 56名ですから 14名の御協力を必要とします。入金御申込の方で  
まだ御送金のない方は至急御送金下さい。

6月7日現在の会計を御報告致します。

( 収 入 )		( 支 出 )	
会費-半年分	200円41人 8200	#11号印刷代	2,000
" 半年分	100円15人 1500	" 郵送料	864
種代 10部	400	振替料	195
寄附(岡本,吉田,植股)	500	計	4,509
立替(坂下,アリマ)	864		
利息	16		
計	11,480	残高	11,480-4,059=7,421-

以上の数なわけで原稿ごへ集まれば御返事は出せますから何卒原稿御投稿に  
一任の御協力願います。

取 下 記

**取 稿 様 集**

- ★ LEONTODO N-ro 13 の原稿をお寄せ下さい。
- ★ 枚数、内容 陸奥(日本語の時は原稿用紙)
- ★ 原稿 締切 30.8.31
- ★ 原稿送付先 北海道ESP 連盟  
又は S70アリマヨシハルへ(札幌北24番9)

**正 誤**

本文中 17, 18, 19, 20p  
はセキセキ社正誤あり  
ます。(17, 20, 17, 18 とあ  
るはおやばり。

LEONTODO N-ro 12  
LA ORGANA GAZETO DE H. E. L

発行日 1955年7月1日  
編 者 北海道工スベラント連盟  
発行人 札幌市北1条東9丁目 坂下方  
振替 小樽5240番  
会 費 年 額 200 円